

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	京都府
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	岩滝町宮津市中学校組合立橋立中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	2	13	22
生徒数	134	117	132	6	389	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人の「主体的に伝え合う」能力と態度の育成
 - 自ら学び、言語を用いて表現するための効果的な指導方法の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 全学年・国語

近年、携帯電話やコンピュータ等の発達によるコミュニケーション手段の広がりを見張るものがある。その反面、話法の乱れや言葉遣い、語彙力の低下など自らの思いを伝える能力において十分に発達しているとは言い難い実態が見られる。

そこで、国語科における「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域1事項を主とする基礎学力の充実・向上を基盤として、他者の意見を受けとめ自己の考えを深化させる能力や、意見をまとめ伝える能力、すなわち「主体的に伝え合う」能力と態度の育成を目指して研究することとした。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	ア テーマ 「個に応じた指導のための教材の開発及び指導方法・指導体制の工夫改善」
	イ 研究の見通し(仮説)
	(ア) 基礎・基本の定着を重視し、「書く・聞く」活動に重点をおいた指導方法の工夫改善を図ることにより、適切に表現する能力、正確に理解する能力の土台が育成できるであろう。
	(イ) 多様な言語活動の継続により、互いの立場や考えを尊重した言葉によって、伝え合う力の育成ができるであろう。
	ウ 研究の内容・方法
	(ア) 少人数指導や習熟の程度に応じた指導方法についての研究や教材開発
	a 研究の内容
	(a) 生徒一人一人の学習をていねいに観察し、必要に応じて指導・支援を図りながら、すべての生徒が基礎・基本を身に付けることができる環境をつくる。
	(b) 学習に対する興味や関心を高め、意欲的に言語活動を行うことを通して、生徒一人一人に学習意欲を持たせる。

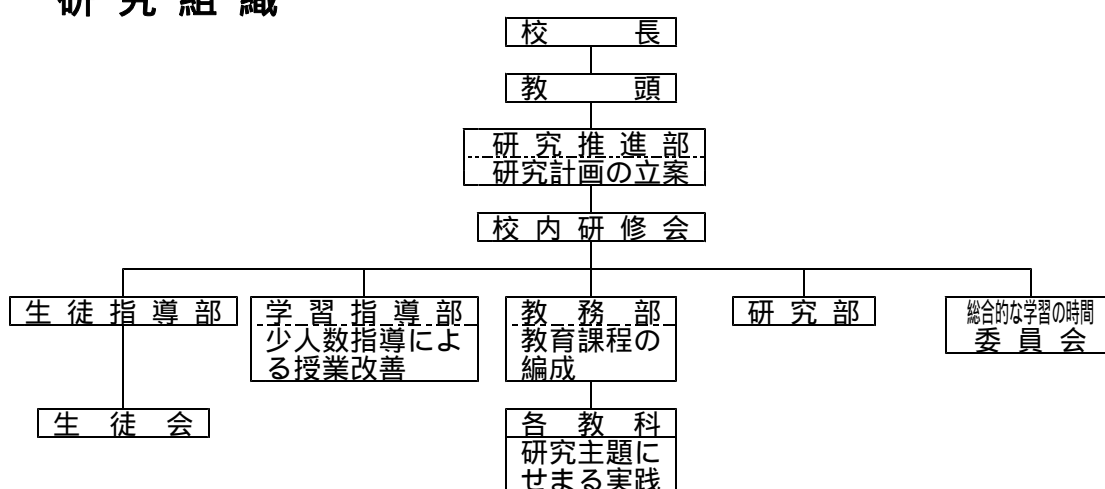
平成15年度	<p>b 研究の方法</p> <p>(a) 数学科、英語科との連携を図り、指導方法の工夫改善を進める。(言語領域においては、習熟の程度に応じた指導へと取組を進める。)</p> <p>(b) アンケート、学力実態調査等により生徒の学習に対する意欲の変容や、基礎・基本の定着度を検証していく。</p> <p>(I) 教材・教具の開発</p> <p>a 研究の内容</p> <p>(a) 「今日の学びカード」の提示による毎時間の授業の焦点化や「学びの振り返りカード」の使用による自己評価能力の向上を図る。</p> <p>(b) 言語領域における発展的な学習、補充的な学習に対応する教材の工夫を図る。</p> <p>b 研究の方法</p> <p>(a) 「今日の学びカード」、「学びの振り返りカード」等の効果的な活用を図る。</p> <p>(b) アンケート、小テスト、感想等により適切な教材・教具であるかどうかの検証をしていく。</p> <p>(II) 評価規準や評価方法についての研究</p> <p>a 研究の内容</p> <p>(a) 主体的な学びを促す適切な指導・評価活動の在り方を研究する。</p> <p>(b) 単元・題材に応じた評価規準の作成をする。</p> <p>b 研究の方法</p> <p>(a) 与謝地方中学校教育研究会国語部会との連携を図り研究を進める。</p> <p>(b) 生徒一人一人の学習達成度を評価規準に基づき分析的に評価し、必要に応じて早い段階での手立てを行い、次の指導に生かす指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(I) その他</p> <p>a 先進校視察</p> <p>b 他教科・領域等への波及を図る校内研修会の充実</p> <p>c 研究授業の実施</p> <p>d 小中連携を図る授業研究会の実施</p>
--------	--

平成16年度	<p>ア テーマ 「客観的データに基づいた実践の構築と、他教科・領域等への波及」</p> <p>イ 研究の見通し</p> <p>客観的データの分析に基づき、実践を構築していくことで、生徒一人一人の「主体的に伝え合う」能力と態度の育成を図ることができるであろう。</p> <p>ウ 研究の内容・方法</p>
--------	--

平成 16 年度	<p>(ア) 客観的データの分析及びそれに基づいた教材開発</p> <p>(イ) 「伝え合う力」の育成に向けた単元ごとの指導目標の焦点化及び指導内容の一層の精選</p> <p>(ウ) 他教科・領域等への波及</p> <p>(エ) PTA 等への啓発活動の推進（国語科だより等の発行）</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

研究組織



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- (1) 教材・教具の開発（小テスト、「今日の学びカード」「学びの振り返りカード」、ワークシート）により、基礎・基本の定着を図ったり、毎時間の授業のねらいの焦点化を図ることができた。また、生徒自らが学びの過程を振り返るための手立てとすることができた。
- (2) 日常的に指導方法や評価についての交流を行うことで、授業改善や指導内容の充実をより一層図ることができた。
- (3) 校内研修会で、各教科における「伝え合う力」についての考え方や実践を交流することで、他教科・領域等への波及につながった。

2. 今後の課題

- (1) 客観的データの分析及びそれに基づいた教材開発
- (2) 「伝え合う力」の育成に向けた単元ごとの指導目標の焦点化及び指導内容の一層の精選
- (3) 具体の評価規準の作成と活用
- (4) 他教科・領域等への波及
- (5) PTA 等への啓発活動の推進

学力把握のための学校としての取組

1 国語学習アンケートの実施

(1) 調査の目的

生徒の意識を把握し、研究の方向性を探るとともに、経年比較による意識の変容を見る。

(2) 実施内容

別添資料

(3) 時期

平成15年5月初旬、全学年実施

2 記述式国語学力調査の実施

(1) 調査の目的

経年比較により基礎・基本の定着を見る。

(2) 実施内容

記述式の標準的学力診断テスト

(3) 時期

平成15年7月7日、1、2年生で実施

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1 期日・場所	平成16年1月15日	橋立中学校
2 テーマ	自ら学び、言語を用いて表現するための効果的な指導方法の工夫について	
3 内容	公開授業及び研究報告と研究協議	
4 参加対象	与謝地区学力向上推進協議会中学校部会委員及び中学校国語科担当 与謝地区学力向上推進協議会小学校部会委員	

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無